塩山北小学校

「主体的に学び，考える児童の育成」
～ICT機器を活用した授業づくりを通して～

Ⅰ　研究内容

1　研究の具体的内容と方法

（１）「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業づくり
（２）ICT機器（タブレット）活用のための学習会
（３）授業案の作成と検討及び授業実施，ワークショップ型授業研究会，一人一実践
（４）Ｑ－Ｕ調査の実施２回（５月・１０月）とＫ１３法による結果分析
（５）家庭学習と授業を有機的に結びつける取り組み

2　研究実践

（１）ICT機器活用のための学習会（５月）
　ア　神金小学校と合同研究会
　イ　edutab学習会　　講師　山梨県立大学教授　　八代　一浩先生

（２）授業実践とワークショップ型校内研究会
　ア　授業実践（１０月）
　　第６学年　　道徳科「ブランコ乗りとピエロ」【edutab】　三森　翠教諭

　　第３学年　　算数科「はしたの大きさの表し方を考えよう」中根　絵里教諭
　　指導助言　山梨県総合教育センター　指導主事　冨士池　慎一先生
　イ　一人一実践

第１学年	国語科「ことばって，おもしろいな」	古屋　ゆか教諭
第２学年	算数科「九九をつくろう」	平山　沙織教諭
第４学年	算数科「広さを調べよう」	雨宮　由香教諭
第４学年	理科「物のあたたまり方」	中村　亮二教諭
第５学年	道徳科「参考にするだけなら」	那須　達憲教諭
第６学年	保健「飲酒の害」	小鳥居　萌助教諭
第６学年	外国語「My summer Vacation.」	小宮山　公仁教諭
たんぽぽ学級	自立活動「冬を見つけよう」	清水　新果教諭

　ウ　遠隔協調学習システム【TV会議システム＋edutab】
　　妙高市立斐太北小学校との交流学習会（第６学年）
　　①総合的な学習の時間「塩山北小×斐太北小～地域とくらしの紹介～」
　　②社会科他「学習発表会～中学生に向けてがんばろうクイズ～」

（３）Ｑ－Ｕ結果を分析し，アタックシートを活用した学級集団づくり

５月と１０月に実施したＱ－Ｕ検査の結果を，低学年・高学年のブロックごとに分析し，アタックシートを作成。日々の学級経営に生かした。

（４）家庭学習の取り組み

ア　自主学習ノートを掲示したり，担任が紹介したりして，見せ合う機会を設定し，児童が相互に学べる機会を意図的に設けた。

イ　各学年において「家庭学習の手引き」「家庭教育・子育てＱ＆Ａ」を活用した効果的な家庭学習の提案を行った。

ウ　学年に応じた学習スタンバイの取り組みを行い，家庭学習が授業の内容と結びつくように支援を行った。

Ⅱ　成果と課題

１　成果

○全教職員の共通理解のもと「主体的・対話的で深い学び」の視点をもって授業改善をしていくことで，研究を深めることができた。昨年までの算数科の研究や甲州市の Teacher’s note を活用して，実践的な研究ができた。

○具体的な方策として，ICT 機器を活用しながら児童の主体的な学びを支える授業づくりの研究を進めることができた。

○ICT 機器を授業に取り入れることにより，新たな視点で授業改善を図ることができた。授業の展開では，前時までの復習，既習事項の確認など，視覚から理解を促したり，児童の学習意欲を喚起したりすること，さらに自分の考えや意見を交流するなどの場面にも活用して，児童が学びを広げたり深めたりしている姿を見ることができた。

○K―１３法による結果分析により，客観的な視点で，各学級の状態や個々の実態を把握することができた。ブロックの先生方と情報を共有しながら，具体的な対策が出され，日々の学級経営に生かすことができた。

２　課題

・教師の技術的な面で，活用までに至らなかった。一度や二度ではなかなか身につかないのが課題である。機器のトラブルが起こった際の対応なども難しい。

・タブレットの講習会をやっていただいたが，使い方が限定されてしまった。本校の環境の中でもできることをさらに学習していきたい。

・授業に ICT 機器を使う意義があるのか考えて使わなければならない。

・家庭学習や学習スタンバイについては，取組が十分でない点もある。中学年以降，個人差が大きくなる傾向にある。個に応じた中で，学校全体として取り組む方向でいきたい。

Ⅲ　成果物

１　研究授業，一人一実践の授業案

２　Ｑ－Ｕアンケート結果，アタックシート

（ 研究主任　平山　沙織 ）